

令和元年度（第1回）山鹿市総合教育会議議事録

日 時	令和元年7月24日（水）9時00分～
場 所	山鹿市役所（5階501会議室）
出席者	中嶋市長 堀田教育長 教育委員：栗川委員、上田委員、野口委員 事務局：大林総務部次長、藤島首席教育審議員、藤本教育総務課長、 新堀課長補佐 説明補助員：吉野学校教育指導室長、園田社会教育課長、西村子ども課長
傍聴者	なし

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 議 題
山鹿市教育大綱の実施状況について
- 4 その他
 - (1) 熊本県鹿本地域出先機関主要事業（教育関係）説明の報告
 - (2) 次回開催について
 - (3) その他
- 5 閉 会

発言者	発 言 内 容
藤本教育総務課長	<p>本日は、野中委員が所用のため欠席をされるということで連絡がっております。それでは、令和元年度第1回山鹿市総合教育会議を開催します。</p> <p>まず、開会に際しまして、議題の確認と会議の公開の可否について確認します。本日の議題は、昨年度の第4回会議で決定しておりましたとおり、「山鹿市教育大綱の実施状況について」となっております。また、その他で6月28日に開催されました「熊本県鹿本地域出先機関主要事業（教育関係）説明」について、教育長から報告をいただきたいと存じます。</p> <p>これらの議題につきましては、非公開とすべき事由がないことから、本日の会議及び議事録につきましては公開とします。なお、本日の傍聴者の方はおられません。初めに、中嶋市長からご挨拶をお願いします。</p>
中嶋市長	<p>みなさん、おはようございます。</p> <p>令和元年度第1回山鹿市総合教育会議の開催にあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。</p> <p>本日は、堀田教育長をはじめ、教育委員の皆さまにおかれましては、大変お忙しい中にご出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>また、日頃から、本市教育の充実・発展にご尽力をいただき、この場をお借り</p>

	<p>しまして厚く御礼を申し上げます。</p> <p>本日の議題につきましては、先程、紹介がありましたが、本年度第 1 回目の会議でありますので、例年、「教育大綱の実施状況について」として提案しているところでございます。</p> <p>私は、かねてより、市内の小・中学校に「あいさつ運動」に行っていますが、総じて元気のいい挨拶をしてくれます。子どもたちの素直な表情や、生き生きと喜んで学校に行く姿にありがたいという思いをしています。また、子どもたちが文化活動やスポーツの分野で県大会や全国・九州大会に出場したり、表彰を受けたときには、市役所に報告に来てくれますが、色々な分野で頑張っている子どもたちの表情を見ますと、輝いていますし自信を持って取組んでいることが伺えます。</p> <p>また、市民や民間の方々も色々な取組に積極的に頑張っていると思いますので、本当にありがたいと思っております。</p> <p>しかしながら、全体的に課題もあるとは思いますが、しっかりと対応しながら全体が充実していくことが大事だろうと思います。</p> <p>最後になりますが、本日の会議では、忌憚のないご意見を賜りまして、また、教育の現状をお聞きしながら有意義な議論ができればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。</p>
藤本教育総務課長	<p>ただいま市長からご挨拶がありましたように、総合教育会議は、市長と教育委員会という対等な執行機関同士の協議・調整の場でありますので、自由な意見交換をよろしくお願いいたします。なお、市長の公務もでございますので、午前 10 時には会議を終了したいと思っておりますので、併せて、ご協力の程よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議題に入ります。中嶋市長に会議の議長をお願いします。</p>
中嶋市長	<p>それでは、議題の「山鹿市教育大綱の実施状況」について、説明をお願いします。</p>
藤本教育総務課長	<p>はじめに、配布資料に一部訂正があります。4 ページの成果取組み状況欄の(1) 3 行目、「1 名増員し 3 名体制」を「2 名体制」に、同(3)2 行目、「研修を行い」を「研修を行う予定で」に修正をお願いします。</p> <p>なお、実施状況報告書につきましては、事前にお配りしておりますので、説明は割愛させていただきますが、社会教育課長より補足説明をいたします。</p>
園田社会教育課長	<p>5 ページの「2 志を育てる教育」の「山鹿学の推進」について補足説明をします。本日お配りしている資料をご覧ください。</p> <p>昨年度実施しました歴史探訪講座につきましては、菊池川の成り立ちに始まり、山鹿の原点ともいべき「方保田東原遺跡」、そして、菊池一族の興亡と熊本人の気質「肥後モッコス」の原点ともいえる、肥後国衆一揆について学習していただきました。本年度は、菊池川流域の文化・伝統文化にスポットを当てて学習いただくようにしており、42 名の方に受講いただいております。</p> <p>また、幼児・子供向けとしまして、紙芝居第二弾「権現さんの力くらべ」の製作に取りかかっております。さらに、「すごろく」を使った史跡名勝の紹介や前方に展示しております「パネルシアター」などを通して、子供達に地域のことを周知しております。</p>

	<p>今後は、これまでの成果を一つの資料にまとめ、副読本の発刊に向けて努力していきたいと考えております。</p> <p>次に、「読書のまち山鹿の実現」について説明をします。別紙の資料を参照いただきたいと思います。</p> <p>本市の公立図書館・図書室移動図書館の蔵書・貸し出し等の現状については、本年度当初の蔵書数は209,361冊で、その内訳については、下段の内訳表のとおりとなっております。平成30年度に購入した本等は12,551冊、寄贈が1,119冊となっており、原則、寄贈の受け入れは行わない方針ですが、官公庁の出版物・郷土資料等についてのみ受け入れております。</p> <p>廃棄については、原則10年を目処に落丁や状態を確認し廃棄しております。廃棄についても、まず小中学校・幼稚園保育園を優先して引き取っていただき、次に各自治公民館など、最後に市民の方々に配布しており、完全な焼却廃棄は、ほぼない状態です。</p> <p>図書館室の利用状況については、下段にまとめておりますが、館内の貸し出しについては対前年比6,638冊の増となっており2.3%程度伸びております。内訳としてB M(移動図書)が1.6%程度の減少をみております。これについては、移動図書館のステーションの見直しを行ったための減少かと思えます。</p> <p>また、和水町との定住自立圏の締結により、317の方が登録いただいております。27,634人の全体登録者数の1.1%の割合となっております。</p> <p>次に、「国際化に応じた教育の推進」について説明します。</p> <p>国際交流については、A U・N S Wスノーイーモナロ市(合併前はクマ市)と相互交流を行っております。これまで、110名を受け入れ、155名の派遣を実施しております。本年度も学生19名、引率7名の受入を予定しております。</p> <p>最後に、8ページの「3生き抜く力を育む教育」の「凡時徹底」では、昨年度に「早ね あいさつ 朝ごはん運動」の啓発・周知ポスターを作成し、全市内(全地区)に配布・掲示しました。また、年間の活動計画表を各戸に配布し、全市内一斉に「早ね あいさつ 朝ごはん運動」に取り組んでいただくよう区長会・公民館連絡協議会等において依頼しております。また、あいさつ運動の前日には、防災無線を使用したお知らせ放送なども実施しています。</p> <p>以上で、補足説明を終わります。</p>
中嶋市長	<p>本日の資料につきましては事前に配付もされ、ただ今も補足説明がりましたが、皆様のご意見をいただきたいと思います。</p>
野口委員	<p>それぞれの基本方針に沿った事業の洗い出しで、昨年度、各項目ひとつの課ではなくて、複数の課にまたがるような形で整理をしてくださいますということをお願いをし、ある程度は整理されていると思います。しかし、こうして表を見ると、成果・取組状況の中に平成30年度の事は書いてありますが、この教育大綱は平成29年度からスタートしていますので、私たちが見たいのは、その前の年からどういふふうに変ってきているのかというものが無いと、大綱の趣旨に沿って前に進んでいるのか停滞しているのか、もっと力を入れなければならないのか、その辺が分かりません。</p> <p>例えば、最初の「1命を輝かせる教育」の「自他の命を大切にす教育の推進」</p>

	<p>の部分では、事業名のところはS S W配置事業だけではなくて、スクールカウンセラーやサポートティーチャーの設置など不登校対策の事業を沢山されています。そういったものも含めて整理していただくとともに、昨年もお願いしましたが、成果は数字で表せるものは、できるだけ数字を入れる。数字で表せないときには、特徴的な事例を入れる。そうすると、ストーンと理解できます。</p> <p>また、同じ部分で言えば、後ほど教育長が報告される県の資料の中にある、不登校の児童数の変化や全国・県と比べた数字を入れておく、「年度毎にはこうなっているのか。全国・県に比べてこうなんだ。」ということが見えてきます。できるだけ数字で表せる実績については入れていただきたい。前の年が特異な年であれば工夫が要りますが、第2次教育大綱が始まった平成29年度の前年度から数字を入れて、年度をたどっていくと、どうなっているのかというのが分かりやすいと思います。</p> <p>不登校についても、数字的には一人ずつあがっていますが、全体としては、とどまっているという状況です。でも、今後の取組と課題を言うときに、前回の総合教育会議でも皆さんと意見交換をしたと思いますが、教育長は「あくまでも不登校ゼロが私たちの目標である」とおっしゃってしまっていて、これからは、当然こういうものを続けていくのもそうですが、「オアシスから学校へ、学校の保健室から教室へ」と教育長がいつも言われていますが、そういう課題や、それをするために必要なことなど、そういうものまで踏み込んでいただくと、もう少し議論が深まるのではないかと思います。</p> <p>他の成果・取組状況についても、そういった形で整理をしていただきたい。これは来年度に向けての話ですが、今年度分からでも整理をして、特徴的な数字だけでも入れてもらうと大きな流れが分かってくると思います。</p> <p>また、4ページのインクルーシブ保育についても、新しい取組が書いてありますが、平成30年度だけの数字を入れてありますので、そういうものが分かるようにしていただくとありがたいと思います。</p>
藤本教育総務課長	成果の部分は、何をもって成果とするかということもありますので、見せ方といいですか作り方も今後検討していきたいと思います。
野口委員	評価表ではないので、何もかもする必要はありません。
中嶋市長	良いご意見だと思いますので、来年度に向けて生かして欲しいと思います。他にありませんか。
上田委員	<p>3ページに不登校児童生徒数が13名となっていますが、以前はかなり多かった人数が減ってきています。ただ、私たちが考えなければならないのは、13名いるということです。市教委は色々な手立てを打って、減らすような努力や子どもが学校に来れることも含めて、行きやすくするというようなことをやっておられますが、この13名をどういうふうに幸せにするのかということだと思います。子どもとしては、かなりきつい部分があると思います。この13名の子どもたちを、どういう手立てで幸せにしていくのかということが、市教委の大きな今後の取組ではないかということが一つです。</p> <p>次に、社会教育課の生涯学習講座では、多くの方に受講していただいて、大人の人材育成ということは着々と進んでいるということを感じました。色々な手立</p>

	<p>てを打ってやっておられるので、56名も参加されて大変うれしく思います。ただ、今後は、それをどのように小・中学生に落とし込んでいくかということが課題かなと思います。なかなか一朝一夕にできるものではありません。受講した地域の大人が子どもたちにどう還元していくのか、学校も地域の人を活用しながら、どう落とし込んでいくのかということが今からの取組かなと思いました。</p> <p>本日は、紙芝居やパネルシアターを展示してありますが、子どもたちは興味を持って喜んで見るのではと思います。大人もワクワクして見っていますが、是非こういうものを広げて、小さい子どものうちから「山鹿にはこんなものがあるんだ。こんな素晴らしい話があるんだ。」と、是非、山鹿に対しての誇りを持って育てほしいと思いました。</p> <p>また、私が現職の時から「もっとこうして欲しいなあ」と思っていたのが図書室の「調べ学習」です。本は各学校に沢山置いてありますが、総合的な学習の時間が始まってから、子どもたちが図書室に行って色んなことを調べたいと思ったときに、そのテーマに沿った資料や本が少ないということと、どこに置いてあるのかなかなか見つけ難いといった状況がありましたが、色んな面で努力されて「調べ学習」もしやすくなっています。もちろん、今はIT関係も進んでいますが、自分で図書室に行って調べるといふ大事さも子どもたちには体験して欲しいので、それができるようになってきているということが大変うれしく思っています。</p> <p>次に、6ページの「国際化に応じた教育の推進」で、「英語の勉強が好き、英語がわかると答えた児童生徒の割合は高いものになっている」とあり、良かったと思います。今後の取組と課題のところに記載があるものはALTのことでしょうか。</p>
吉野学校教育指導室長	はい。ここはALTのことを書いております。
上田委員	<p>英語教育については、小学校の英語活動の低学年化や英語教育が入ってきまして、小学校の先生たちはその対応が大変です。それがなくてもやるが多すぎて時間が足りない、休む暇もない、トイレに行く暇もないという状況の中で英語が入ってきています。英語は、一朝一夕に先生方もできるものではなく、昔から好きでやっている人は意欲も違って来るかもしれませんが、これも小学校の先生方には負担になります。そういった意味で、ALTの先生方が、だいぶ入って担任を補助してくださるということは大変ですし、そのALTの先生方は、自分たちの指導のあり方を振り返ったり、お互いの学校の情報交換をしながら山鹿市全体の先生たちのレベルを引き上げてあげるとか、授業がやりやすい、子どもたちが楽しいと思うような授業に底上げをしていくことをやっていただいているということは大変ありがたいと思っています。</p> <p>それから、先生方を市教委に呼んで勉強会をしていただいております。この取組が小学校の担任や中学校の指導力がない先生方の力になっていて、かなりこれは効果があるので大変ありがたいと思います。</p> <p>次に、オーストラリアのクーマへの派遣・受入について、子どもたちの報告会にはずっと参加をしていますが、以前は、子どもたちが報告会をする時に、同じテ</p>

	<p>ーマが多かったです。例えば、「食」に関するテーマであれば、どのグループの発表も「食」についてと内容も同じになっていて、「せっかく行ったのにそこだけなのか。残念だなあ。」と思って見ていました。しかし、今年の発表を見ましたらテーマが色々な分野に分かれていて、子どもたちが色々な視点から学んできている。こういうやり方だったら 子どもたちがクーマに行って勉強すると成果が上がるのではないかと考えて見させていただきました。</p> <p>ただ、クーマに行ける子どもというのは限られていますので、行けるならみんなやりたいところですが、それはなかなか難しいというところで、子どもたちは学校の授業の中ではALTの外国の先生方と触れ合う場面はありますが、何らかの形で学校に何かを仕掛けて、多くの子どもたちが外国の先生だけではなくて、色々な人達と交流ができる。実際、英語を話したら通じるんだと、気持ちが通じたんだ、という体験を多くの子どもたちにさせていただくなら、これからの子どもたちを育てる機会になるのかなあと思って見ています。</p>
中嶋市長	<p>ただいまのご意見について、各課から何かありますか。</p>
園田社会教育課長	<p>まずは、図書の「調べ学習」について、補足説明をさせていただきます。</p> <p>市図書館では、先生たちの「調べ学習」の教材をテーマ毎に準備しています。先生たちが、その図書を子どもたちに資料として使うということであれば、貸し出しするというのもやっております。</p> <p>次に、オーストラリアの話ですが、一昨年から教育長より「行きたくても経済的に行けない子どもたちの救済をどうにかできないだろうか。」という話をいただいておりますが、非常に難しい問題ですので苦慮しているところです。</p> <p>ただ、今回の受入につきましては、城北高校、鹿北中学校、山鹿中学校の生徒たちには、直接、交流ができるような形で進めたいと思っております。鹿北中学校ではほぼ1日、城北高校では半日。また、山鹿中学校では、お客様を接待をするような形で八千代座でお迎えをして、山鹿の紹介などで自分達の英語力を試すという企画を考えているところでございます。</p>
中嶋市長	<p>昨年、オーストラリアから戻ってきた子どもたちは、非常に生き生きと輝いていたことがとても印象的でした。非常に充実した研修であったと思えますし、希望も多くて行けなかった子どもたちも沢山いますが、上田委員からもありましたように、是非、色々な形で他の子どもたちに伝えて、少しでも共有できるようにしていくと、更に効果があがるのではないかと思います。また、受入時も色々な工夫をしているという感じがしました。</p>
園田社会教育課長	<p>本日は、昨年度の「クーマ交流派遣事業」の派遣報告書をお配りしております。子供たちの率直な気持ちが書いてありますので、是非、ご一読お願いします。</p>
野口委員	<p>交流派遣事業の報告会には私たちも出席し、報告を聞きますが、それぞれの学校でもあるのでしょうか。</p>
園田社会教育課長	<p>それぞれの学校でも報告会はやっています。社会教育課としては、そこまでが交流事業ですと言っていますので、色々な資料を使ってプレゼンをしています。</p>
中嶋市長	<p>他にありませんか。</p>
栗川委員	<p>私からはインクルーシブ教育について、少し事例を挙げて説明いたします。障がいのある生徒が、担任の先生に、のけものにされているという話を聞きま</p>

	<p>した。それはどういうことかという、他の生徒たちは、コンピュータ授業で自由に使っているが、自分には暗証番号を教えてくれないとか、ハサミを使うときにも、自分だけハサミを使わせてくれないということがあって、その親御さんが校長先生に相談をされたら、「それは私が中に入ってやりましょう」ということで、その親御さんは、校長先生は味方というふうに思われていました。</p> <p>校長先生が担任に尋ねると、その担任の先生は、その生徒の特性をよく理解されていて、ハサミを持ったら人に向けたりして危ないから当然そうなるし、コンピュータも自由に使わせたら違うサイトに入っていきから、そういうことをしていたわけです。それで校長先生が親御さんにそういう説明をされたら、親御さんは校長先生が味方ではなくなったと判断をされ、どんどん学校との溝が深まっていきました。そこで合理的配慮コーディネーターが中に入って、親御さんの意見をしっかり聞いてやって、最後には納得をされたということがありました。</p> <p>合理的配慮コーディネーターを増強していただいたことは、非常にありがたいと思っていますし、これがないと、学校と保護者が歩み寄りなかったと思います。優秀な合理的配慮コーディネーターを、これからも雇っていただくことが一番必要ではないかと思います。そういう事例があったことを報告いたします。</p> <p>次に、鹿北町出身の小説家の古川春秋さんが、山鹿のことを書きたいということで来られました。色んなことを調べられていて、清浦奎吾や山鹿学などを話しましたが、是非、彼らに山鹿学のことを教えるためにも資料等の題材を送って、山鹿のことを書いていただくと一番良いのではないかと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
園田社会教育課長	分かりました。資料を揃えて送りたいと思います。
野口委員	山鹿学の関係でよろしいでしょうか。展示してある「紙芝居」や「パネルシアター」の利用はどうされていますか。
園田社会教育課長	この紙芝居につきましては、こもれび図書館の職員が各保育園・幼稚園に出向いて、おはなし会や研修等で直接やっています。ただ、今の子どもは動きがないと反応が鈍くなります。紙芝居は動きがないものですから、パネルシアターを使って掛け合いをしています。パネルシアターにすると子どもたちの食い付きがいいので、子どもたちは楽しんでいるようです。また、子どもたちが自分たちでお話を作って面白いこともやっています。
野口委員	紙芝居がもったいないですね。小学生にはどうですか。
園田社会教育課長	小学生は食い付きがいいのですが、1枚2枚とやっていると次に何がでてくるかわからないので直ぐに飽きてきます。
野口委員	それでも、読み聞かせ会などを大きな絵本でされていると、結構、小学生も聞いてますよね。保育園だから無理なのかもしれないですね。
園田社会教育課長	「紙芝居」と「絵本の読み聞かせ」は、少し違う感じに思います。
野口委員	少し寂しいですね。
中嶋市長	これを作ったのは誰ですか。
園田社会教	絵は出土文化財管理センターの職員です。著作権も山鹿市にありますので、第二

育課長	弾を仕事の合間になりませんが製作中です。
中嶋市長	使い方も研究していただきたいと思います。先ほど、栗川委員が言われた合理的配慮コーディネーターは、私も見ていて素晴らしい人材を充ててあると思います。成果も上がっていて、色々なところで活躍もされています。
堀田教育長	<p>不登校については、13名とかなり少ないのですが、あくまでゼロにするのが目標です。昨年度の第4回総合教育会議でも申しましたように、不登校の定義が30日となっていますので、年の途中で学校に来るようになって不登校としてカウントしてしましますが、学校の頑張りで解消した子どもも随分います。</p> <p>また、小学校の英語については、既に負担を感じている教員が出てきています。国も大きな課題としてあげていますが、最終的には専科を入れるかどうかだと思います。免許制度もありますし、国はある程度入れていますが、県がどれだけ専科をいれきるのか、逆に、県が入れない時には市町村独自に入れなければならない時が来るのかなど、先を見越して考えなければならないと思っています。</p> <p>小学校の免許に英語を学ばなくてはならないというところはありませんので、免許制度自体も、小中連携をどこでも始めているということは、ひょっとすると小中連携の中で中学校の専科が小学校を見る。そういう制度に山鹿市も考えていかななくてはならないのかなと思っています。既に、鹿北中学校の専科が鹿北小学校の音楽も見ていますし体育も見ていますので、専門の先生の授業時間数は増えています。色んな課題がありますので、きちんと網羅して知恵を出したいと思っています。</p>
上田委員	相当な負担だと思います。
堀田教育長	<p>優秀な教員を潰すわけにはいきませんので、藤島首席と一緒にやっているところです。</p> <p>次に、教育大綱の「2志を育てる教育」の中で「立志の道を歩こう」という事業をやっています。今年は、「各小学校から最低1名は参加するようにしてください。」と校長会で伝えて、必ずこれに参加させるようにしています。参加した児童は、学校に持ち帰って、道徳の授業で発表するという取組を行っているところです。以上です。</p>
中嶋市長	<p>私も最近感じていますことは、山鹿市旅先案内人の会の月例報告会に行きまして、森会長から聞いたことは、八幡小学校の子どもたちを案内したところ、山鹿の歴史・文化に感動してお礼状をくれたということでした。正に山鹿学・山鹿の素晴らしさを学んで郷土に誇りを持つ、そういう子どもたちを育てることに触れてうれしく感じました。</p> <p>また、日本遺産関係でも、菊池川流域の歴史・文化を案内するガイドを育てようということで勉強会がっておりますが、特に山鹿市からの若者の参加が多かったと聞いています。子どもたちだけではなくて、大人の方も山鹿の素晴らしさを学んで観光として伝えている。そういった市民力が、最近、非常に高まっていると実感しています。</p> <p>また先般、日豪協会の総会等に行って非常に感動しました。松尾中佐とその母が築いた日豪交流の礎は、正に山鹿市の誇りです。そういうものを、より多くの</p>

	<p>市民や子どもたちに山鹿の誇りとして伝えたいと思い報告します。</p> <p>それでは、教育大綱の実施状況については以上でよろしいでしょうか。</p>
委員一同	はい。
中嶋市長	<p>続きまして、4 その他の『熊本県鹿本地域出先機関主要事業説明の報告』について、堀田教育長からお願いします。</p>
堀田教育長	<p>県からの説明について報告します。県の担当者からは、今、山鹿市の教育が県の教育をリードしていると言っても過言ではないと言ってくれました。</p> <p>6年前に、日本一の学園都市「やまが」をつくりますということで宣言をしましたが、これは、教育大綱の「生き抜く力を育む教育」とマッチングしています。何も別の目標ではありません。具体的には、市内全校の学力が全国平均をすべて上回るという目標と、不登校をゼロにする目標、徳育面では、「いつでもどこでも誰にでもあいさつをする」という日本一のあいさつを作り上げる目標を掲げました。</p> <p>その成果として県が言われたのは、5 ページに全国的な教育課題を載せてありますが、「学力、不登校、徳育」3 つが課題ということで、盛んに全国で社会問題になっています。山鹿市の取組は6 ページから記載がありますが、7 ページに県の学力調査の結果が載っています。全ての教科・学年で県内でダントツにトップであり、その成果は県も認めています。</p> <p>不登校に関しては、9 ページに記載がありますが、「全児童生徒に対する不登校児童生徒の割合」が全国 1.47%に対して山鹿市は 0.31%となっていて、これもダントツで不登校の出現率が少ないとなっています。サポートティーチャー等の配置など、市長部局からも手厚い支援をいただいておりますが、現在、支援員は一人で5~6人の子どもたちを抱えて、毎日家庭訪問もしています。せめて一人で2~3人の子どもたちを見れるようになるとしたならゼロに近づくのではないかとこの計算をしています。市教委としては、引き続き不登校ゼロを目指していきます。</p> <p>次に14ページの徳育面です。市長の熱い思いで「あいさつ運動」を実施していますが、旧鹿本町から始まったもので、朝から何人もの方々が通学路に出て、あいさつを大事にされていますので、鹿本地域の方々はすごいと思います。この動きを全域に広めていきたいと思っています。</p> <p>最後に教職員の働き方改革です。これについては、委員からもご意見をいただいているところです。16 ページに記載がありますが、山鹿市では、来年度にかけて実施する4項目を記載しています。留守番電話の導入については、定時退勤日の17時から留守番電話に切り替えるということで、地域や保護者にも啓発を行って、整備が進んでいる学校から始めてまいります。また、校務支援ソフトの導入については、色んな分掌処理は負担がかかりますので大きな成果ができています。小学校の運動部活動については、先生達の大きな負担になっていましたが、完全に社会体育に移行しました。以上です。</p>
中嶋市長	ただ今、教育長から説明がありましたが、何かご意見等はございますか。
上田委員	校務支援ソフトの導入については、先生方の負担をかなり減らしているということで、ありがたいという話をよく聞いています。また、留守番電話の導入につ

	<p>いては、定時退勤日の17時以降は受け付けないということも、非常にありがたいことです。何故かと言いますと、保護者とのトラブルがあった場合に、何時までも限りなく話が続いて、何もできないという状況が続きます。こういう対応をしていただくと、先生が落ち着いて次の授業の準備等も、考える時間もできるということです。ただ、小学校の運動部活動が廃止され、先生方の負担は減ったと聞いておりますが、中学校はいつからなるのでしょうか。</p>
堀田教育長	<p>中学校は中体連がありますから、完全には社会体育とはならないかもしれませんが、外部指導者を入れて社会体育のように運営しているところもあります。学校指導要領の総則に部活動の意義をうたっていますので、いかに部活動が教育的な効果をあげているかということ、国も認めているということです。これは完全にはならないと思います。</p>
野口委員	<p>中学校については、生徒数が少ないのに多くの部活動を抱えている学校があり、先生たちがそれぞれ担当されているので、絞込みみたいな話をやっていかなければならないと思います。鹿北中の弓道部が良い例で、県大会で優勝するなど、頑張ってくれていますので、もう少し踏み込める応援をしていかなければならないと思います。</p>
中嶋市長	<p>4月の辞令交付式の時にも先生方に申し上げますが、山鹿で一番の誇りは、子どもたちの姿だと思っていますし、「自慢だ」と本当に言っています。</p> <p>ただ今、教育長から報告がありましたが、「あいさつが素晴らしい」「不登校がダントツに少ない」「学力が高い」、これは、簡単なことではありませんが、一番大事な部分が一番良い形になっていると思います。</p> <p>あいさつ運動では、市民の方々がいっぱい声をかけられ、子どもたちを育てておられます。また、不登校については、市教委を中心とした学校の先生方の頑張りで、この素晴らしい成果、子どもたちの姿があると思いますので、感謝しております。</p> <p>私は、このような「子どもたちの姿」「市民の取組」「先生方の頑張りを」、機会があるごとに、色々な方々に知っていただくためにしっかり申し上げております。</p> <p>それでは、時間もありますので、以上でよろしいでしょうか。</p>
委員一同	はい。
中嶋市長	続きまして、次回開催について説明をお願いします。
藤本教育総務課長	<p>次回の開催日程及び議題の案についてご提案します。</p> <p>本会議は、1年に3回の会議を予定しております。今回は、2学期の10月頃に、議題は「11月から開催される世界ハンドボール大会関係」を中心に報告したいと思います。また、3回目は3学期の2月前後に、本年度から「ふるさと未来総室」という組織ができておりますが、そこを中心とした施策の展開や取組状況等を報告できればと考えております。以上です。</p>
中嶋市長	ただ今、提案がございましたが、ご意見やご質問等はございませんか。
野口委員	<p>教育大綱を見たときに「山鹿学」という言葉がでてきて、他の方針と比べて、検討された皆様方の思いが特に入っていると思います。それをテーマにして、今の取組や課題等の話し合いができればいいと思いますがいかがでしょうか。</p>

園田社会教育課長	現在、「社会教育委員の会」に、「山鹿学は斯くあるべき」ということを、お尋ねしております。本年度末には、答えを出していただくような形にしておりますので、その結果で取組状況等が報告ができると思います。
中嶋市長	事務局は、野口委員の意見を踏まえて検討してください。
藤本教育総務課長	分かりました。
中嶋市長	他に何かありますか。
各委員	ありません。
中嶋市長	本日は、大変貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。是非とも今後の取組や施策に生かしていただきたいと思います。それでは、進行を事務局に戻しまして、議長の役目を終了させていただきます。
藤本教育総務課長	本日の会議の全日程は終了いたしました。これもちまして、令和元年度第 1 回山鹿市総合教育会議を終了します。